

総合人間科学 心理学

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	0人
病院教授	0人
准教授	1人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	0人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	4人
合 計	5人

1-2 教員の異動状況

田中 悟志(准教授)(平成26.4.1～現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名	心理学・神経科学のリハビリテーションへの展開
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	心理学・神経科学の知見を基に効果的な脳卒中リハビリテーションの研究開発を行う。
	(3)前年度までの状況	経頭蓋脳刺激をリハビリテーションに応用するための基礎的研究を行った。
	(4)当該年度内の進捗	経頭蓋脳刺激による脳内電場の空間分布に関してシミュレーションによる分析を行った(Laakso, Tanaka et al., NeuroImage 2016)。
	(5)翌年度の方針と予想	シミュレーションと実データとの整合性を検討する予定である。
2	(1)研究・開発等のテーマ名	ヒト脳機能マッピング研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	ヒト脳機能の機能局在に関してはまだあまり明らかではない。脳イメージング、神経心理学、心理行動計測により統合的にアプローチしていく。
	(3)前年度までの状況	学習や記憶、痛覚(Koyama et al., 2017 Neuroreport)、触覚(Fujimoto et al., 2016 Frontiers Neurosci)等の神経基盤に関して検討を行ってきた。
	(4)当該年度内の進捗	今年度より新たに動機づけの神経基盤について検討を行っていく。そのための文献等の調査を行った。
	(5)翌年度の方針と予想	予備実験に着手する。

3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	5編 (1編)
そのインパクトファクターの合計	13.010
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	2編 (2編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	0編 (0編)
(5)症例報告数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Fujimoto S, Kon N, Otaka Y, Yamaguchi T, Nakayama T, Kondo K, Ragert P, Tanaka S. Transcranial direct current stimulation over the primary and secondary somatosensory cortices transiently improves tactile spatial discrimination in stroke patients. <i>Frontiers in Neuroscience</i> 10 128 2016.	3.400

論文数(A)小計 1 うち和文 0 IF小計 3.400

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Laakso I, Tanaka S, Mikkonen M, Koyama S, Sadato N, Hirata A. Electric fields of motor and frontal tDCS in a standard brain space: A computer simulation study. <i>NeuroImage</i> 137 140-151 2016.	5.460
2.	Gomez-Tames T, Sugiyama Y, Laakso I, Tanaka S, Koyama S, Sadato N, Hirata A. Effect of microscopic modeling of skin in electrical and thermal analysis of transcranial direct current stimulation <i>Physics in Medicine and Biology</i> 61(24) 8825-8838 2016.	2.810
3.	Koyama S, Nakagawa K, Tanaka S. Transcranial direct current stimulation over the opercular somatosensory region does not influence experimentally induced pain: a triple blind, sham-controlled study. <i>Neuroreport</i> 28(3) 158-162 2017.	1.340
4.	立本将士, 山口智史, 山口智史, 田辺茂雄, 大高洋平, 大高洋平, 近藤国嗣, 田中悟志. 頭皮-皮質間距離が経頭蓋磁気刺激法による下肢一次運動野の運動誘発電位に及ぼす影響. <i>理学療法学</i> 43(6) 469-476 2016.	0.000

論文数(C)小計 4 うち和文 1 IF小計 9.610

(3) 総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	田中悟志. 経頭蓋直流電気刺激の脳卒中リハビリテーションへの応用. <i>The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine</i> 53(6) 446-451 2016.	0.000
2.	田中悟志. 経頭蓋直流電気刺激法の基礎と応用. <i>脳科学とリハビリテーション</i> 16 35-41 2016.	0.000

総説数(A)小計 2 うち和文 2 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	2件	620万円
(2) 厚生労働科学研究費	0件	0万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0件	0万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0件	0万円
(5) 他政府機関による研究助成	0件	0万円
(6) 財団助成金	0件	0万円
(7) 受託研究または共同研究	1件	30万円
(8) 奨学寄附金	0件	0万円

1. 基盤研究B、直流刺激と行動分析の統合リハビリによる日常生活動作の再獲得:その基礎と臨床応用、平成28-31年度、代表	510万円
2. 挑戦的萌芽研究、社会報酬操作による運動リハビリテーション効果の促進、平成27-29年度、代表	110万円

(7) 受託研究または共同研究

1. 企業1件	30万円
---------	------

6 大型プロジェクトの代表、総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0件	1件
2) シンポジウム発表数	0件	3件
3) 学会座長回数	0件	0件
4) 学会開催回数	0件	0件
5) 学会役員等回数	0件	0件
6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

1. 田中悟志、モチベーションの心理学と脳科学、第4回日本シミュレーション医療教育学会学術大会、2016年9月24日
--

2) シンポジウム発表

1. 田中悟志、経頭蓋直流電気刺激法(tDCS)の基礎と実践、第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会、2016年4月24日
2. 田中悟志、経頭蓋直流電気刺激法(tDCS):実施の方法とポイント、第23回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会、2016年4月24日
3. 田中悟志、精神疾患・脳卒中に対する経頭蓋直流電気刺激(tDCS)、名古屋工業大学シンポジウム「医用画像と物理シミュレーションの融合による電磁界の医療応用と安全性評価技術の最新動向」、2016年12月15日

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1) 外国	(2) 国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. Neuropsychological Rehabilitation (1)
2. PLoS ONE (1)
3. NeuroImage (1)

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	1件
(2)国内共同研究	4件
(3)学内共同研究	2件

(1)国際共同研究

【テーマ】脳刺激の脳内電場シミュレーション研究。

【相手機関】Dr. Laakso Ilkka, Aalto University, Finland.

- 【業績】Laakso I, Tanaka S, Mikkonen M, Koyama S, Sadato N, Hirata A. Electric fields of motor and frontal tDCS in a standard brain space: A computer simulation study. NeuroImage 137 140-151 2016年

【研究費】文部科学省・科研費

(2)国内共同研究

- 定藤規弘(自然科学研究機構生理学研究所)ヒト脳機能イメージング研究
- 平田晃正(名古屋工業大学)脳刺激の効果に関する生体シミュレーション研究
- 近藤国嗣(東京湾岸リハビリテーション病院)新しい脳卒中リハビリテーション法の研究開発
- 藤島一郎(浜松市リハビリテーション病院)新しい脳卒中リハビリテーション法の研究開発

(3)学内共同研究

- 尾内康臣(生体機能イメージング研究室)ヒト脳機能イメージング研究
- 杉山憲嗣(脳神経外科講座)ヒト脳機能に関する研究

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	1件

- 企業1件

11 受賞

12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

13 その他の業績